

## 来日前不安に関する理論的・実証的研究：eラーニングによる来日前日本語学習教材の有効性

早瀬，郁子

<https://doi.org/10.15017/1931981>

---

出版情報：九州大学，2017，博士（学術），課程博士  
バージョン：  
権利関係：

氏 名 : 早瀬 郁子

論 文 名 : 来日前不安に関する理論的・実証的研究  
—eラーニングによる来日前日本語学習教材の有効性—

区 分 : 甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、情意要因である「言語不安」が、第二言語習得に最も影響力を与え学習意欲を阻害するとも言われていることから、第二言語不安の中でもこれまでほとんど扱われることのなかった「来日前」の不安に焦点を当てる。まず、その「来日前不安」という新しい概念を定義しその不安因子の分析を試みる。さらに、その来日前不安を軽減させるために、eラーニングを活用した「来日前日本語学習教材」の設計・開発・配信・評価を行い、その教材がどの程度学生の不安を軽減させ、さらには学習意欲を高めることができるかを検証することが目的である。

これまで、日本語学習における第二言語不安として、日本語不安尺度が作成され分析が行われているが、「来日前」という状況での不安要因は明らかにされていない。さらに、eラーニングによる来日前日本語学習教材はあるものの、不安に焦点を当てて作られたものはない。したがって、本研究における研究課題として以下の4点を設定する。

- (1) 「来日前不安」とは何か
- (2) 来日前不安要因とはどのようなものがあるか
- (3) 「来日前不安」を軽減させるために有効なeラーニング学習教材とはどのようなものか
- (4) 本研究で開発したeラーニング学習教材がどのような効果をもたらすか

本論は全6章で構成される。内容は以下の通りである。

第1章では、本研究の背景、目的、研究方法、および本研究の構成と各章の要旨を述べる。

第2章では、本研究に関連する先行研究を踏まえ本研究の研究課題を設定する。まず、哲学や心理学における不安の史的変遷を概観しながら、不安の概念と定義、第二言語不安、留学前不安に関する研究をまとめる。さらに、来日前不安を軽減させるために有効であるeラーニング遠隔教育についての先行研究を概観し、不安軽減を考慮に入れたインストラクショナルデザイン及び学習意欲デザインなど教材開発に必要なこれまでの研究をまとめる。これらを基に、上述したような研究課題を設定し、それを進めるための具体的方法を提示する。

第3章では、「来日前不安」の定義と分析を行う。予備調査を行った後で「来日前不安尺度」を独自に作成する。さらに、それを使った調査を実施し、来日前不安因子を抽出する。また、先行研究における日本語不安尺度や動機づけ・自己効力感尺度を利用し、来日前不安と、第二言語不安や動機づけや自己効力感との相関関係を求め、来日前不安と動機づけや自己効力感などの他の情意要因との関連も検証する。

第4章では、不安軽減のためのeラーニングによる「来日前日本語学習教材」の開発の意義を述

べ、学習者のニーズ調査を行い、インストラクショナルデザインや学習意欲デザインを基に e ラーニング学習教材を設計し開発する。

第 5 章では、開発した e ラーニング学習教材の配信を行い、その教材の有効性を検証する。実際に教材を配信した学習者を対象にアンケートとモニタリングを行い、それらを集計し分析することで、e ラーニングによる来日前の学習教材及び学習支援が、来日前不安を軽減し、その後の学習や生活をスムーズにするためのどのような効果があったかを検証する。さらに「学修観」を導入することで個別支援の可能性を広げる。

第 6 章は総合的考察として、本研究の成果とまとめを述べ、今後の課題について考察する。

「来日前不安尺度」によって、「来日前不安」は第二言語不安である状況特定の不安のみならず、特性不安や状態不安など、様々な不安要因が絡み合っており、「来日前不安」は、「情報不足による不安」「精神面での不安」「新しい環境への生活不安」「日本語能力に対する不安」の 4 因子に抽出されることが分かった。さらに、その不安軽減のための e ラーニングによる「来日前日本語学習教材」を設計・開発・実施した結果、この学習教材が、来日前不安要因の軽減に有効であったこと、学習意欲を喚起できたこと、学習意欲を継続させるための方策を講じると学習継続率が高くなることが実証できた。「学修観」という視点から個々に焦点を当てたサポート体制を充実させることで、さらに学生の不安が軽減することが分かった。今後の課題としては、日本語レベル分けのコース作りや、来日前不安尺度の精査、e ラーニング教育ではカバーできない来日前不安因子への対応などが挙げられる。

以上から、本研究が、課題とした「来日前不安」という新しい概念を定義しその不安要因を抽出したこと、今回開発した e ラーニング教材が不安軽減に有効であったこと、「学修観」の視点を踏まえたサポート体制の重要性を示したことなど、e ラーニングによる日本語教育の分野の新しい貢献になると考える。